

## 『カメラプラス』 上原 ゼンジ (Y743-ウ)

絵には興味あるし、見るのも好きだけど、実際自分で描くのはちょっと大変そうだなあ。でもせっかく秋だし(?)何か挑戦してみたいなあ。と思った人にオススメの本がこちら。

サブタイトルに「トイカメラ風味の写真が簡単に」とあるように、トイカメラを買わなくても、あの独特の味わいがある写真が撮れちゃう本です。油絵なんて無理という人でも、写真なら手軽に始められるのでは? しかも普段使いのデジカメに、身近にあるコップやリボンを組み合わせるだけで、一味違う写真にする方法が紹介されているから、読んでいるとその場でやってみたくくなりますよ。

さらにこだわりたい人には、レンズの紹介やパソコンで画像を加工する方法なども紹介されているので、挑戦してみてください。

トイカメラの世界のはまりそうな人は、合わせて『トイカメラ使い方レシピ』(Y742.5-ブ) もどうぞ♪



## 『ハチミツとクローバー』 全 10 巻

羽海野 チカ (Y726.1-ウ)

ヤングアダルトコーナーに、久しぶりに新しいコミックが入りました。ドラマや映画にもなった「ハチクロ」です。芸大を舞台に、全員片思いという切なくもほのほのとしたラブコメディ。主人公の花本はぐみが無心で絵を描いているカットは印象的です。

### YAブックリスト 第8号

発行 平成 20 年 9 月 30 日

稲城市立中央図書館

稲城市向陽台4-6-18

電話 042-378-7111

<http://www.library.inagi.tokyo.jp>



稲城市立図書館

ヤングアダルト



# BOOK LIST

## たまには芸術にでもひたっとく!? だって秋だし♪ 特集

暑くて暑くて仕方なかった夏が、なんとか過ぎ去ろうとしています。風が少しずつ冷たくなって、空気が澄んで、空が高くなって…秋は本当にキモチのいい季節ですね。こんな季節はどこかに出かけるにも、おもいきり体を動かすにも、おもいきり物想いにふけるにも(?)最適です。

みなさんはどんな秋を過ごしたいですか?

今回のブックリストは「芸術の秋」特集です。芸術なんていうと高尚すぎて堅苦しい…と思うかな。

でも、芸術を気軽に楽しめる本を集めたので、ついでに読書の秋も楽しんじゃってくださいね♪



## 『にいさん』 いせ ひでこ (Y726-イ)

ゴッホという画家を知っていますか。「ひまわり」の絵で有名なゴッホです。この本では、ゴッホの人生が、唯一の理解者と言ってもいい弟テオの視点を通して語られています。絵を愛し、自然を愛し、でも孤独だったゴッホの生涯。読み終わると、37年という短いゴッホの生涯をもっと知りたくくなります。

そして何より絵がすばらしいです。ページをめくるごとにため息がでるような、鮮やかな黄色と深い青。ゴッホの「夜のカフェテラス」という絵を彷彿させます。画集として眺めていても飽きない、ゆっくり静かに味わいたい絵本です。





## 『アート少女』 花形 みつる (Y913.6-ハ)

美術部部長の「根岸節子」と超個性的な「ゆかいな仲間たち」が主人公。美術部は部員数が4人と少ない上に、学力重視の校長の企みで部室まで奪われてしまいます。あわや廃部か？という危機に追いやられつつも、「アート大好き！」の気持ちだけでひたむきに頑張る美術部員たち。こう書くと「さわやか青春モノ」みたいですが、部員たちのがんばり方が一味違うために、どちらかというドタバタコメディに(笑)部活存続をかけて校長に大見栄を切った根岸節子。果たしてその結末は…。



## 『ピカソに見せたい!』 山本 容子 (Y720.7-ヤ)

独特の色使いが印象的な銅版画家の作者が、テレビの企画で子どもたちに行った授業を本にしました。授業のテーマは「絵になりにくいモノを版画にしよう!」バンドエイドやマチ針、つぶれた蚊などなど…身の回りのモノたちが芸術になるためには、まず何より「見ること」が大切みたいです。作者と子どもたちの会話を読みすすめると、自分がいかに見ているつもりになっているかに気付きます。固定概念を取り払って、もう一度周りを見渡してみると、実は私たちの周りには美しいものがいっぱいだな。と思えるかも。子どもたちの作品が、全部カラーで見られるのもうれしい本です。

## 『「無言館」ものがたり』 窪島 誠一郎 (Y916-ク)

「無言館」とは、戦没画学生の作品や遺品が展示された美術館です。画家になることを夢見て絵を勉強していた大勢の学生たちが、太平洋戦争で亡くなりました。作者は、残された作品を訪ね歩き、収集し、美術館を開いた「無言館」の館長です。ところでなぜ「無言館」というのか。この本を読んで、収められた画学生の作品を見て、ぜひ考えてみてください。



## 『描かれた食べもの』 ジャック・リチャード・リ (Y723-リ)

さまざまな国や時代の名画を、身近なテーマ別にまとめた「名画の中の世界」シリーズの中の1冊。果物やお肉、ワインやパンなどは静物画としてよくある題材ですが、アイスクリームを立ち食いする女性などもあり、次第に「食欲の秋」に傾く自分を感じるかも?(笑) 庄巻は中国の画家が描いた「赤唐辛子の日干し」。一面に干された真っ赤な唐辛子のそばで忙しそうに働く農村の人たち。そばを通りすぎるだけで、目がヒリヒリしそうな唐辛子の量にたじろぎつつ、異国の日常を感じることができません。同じシリーズで遊び・旅・仕事・家族などもあります。



## 『「美しい」ってなんだろう?』

森村 泰昌 (Y704-モ)

芸術に近づく方法っていくつあると思いますか?この作者は「見る」「作る」「知る」という3つの道以外に、「なる」という方法を思いつきます。有名な芸術作品に、自分の顔で、時には体ごと「なって」しまうのです。彼が「なって」いる写真は、思わず「ナニやってんだか…」とあきれつつも、その徹底ぶりは次第に笑えてきます。各章の間に挟まれる「ブレイクタイム」というQ&Aコーナーも、ネットに寄せられた質問というだけあって、質問自体が率直でユニークです♪

## 『ピアノ調律師』 M・B・Jブスタイン (Y933.7-ゴ)

世界一のピアノ調律師をおじいさんに持つ主人公デビーは、調律する音が、他のどんな音楽より美しいと感じる女の子。デビーはおじいさんのようなピアノ調律師になりたいのですが、なかなか仕事を教えてもらえません。ある日仕事をバツィングしてしまったおじいさんにお使いを頼まれたデビーは…。そういえば上に紹介した本にも書いてありました。芸術に近づく方法「見る」「作る」「知る」「なる」以外に、「手伝う」という道も素晴らしいって。

